

第33回「大阪の消防大賞」受賞者

消防団員の部

所属	受賞者	功 績 概 要
和泉市 消防団	山本成男 団長 他280人	<p>台風21号の豪雨による市内の避難指示地域は山間地域や榎尾川流域と広範囲に及んだが、消防団は豪雨の中、歩いて地域の隅々まで避難を呼びかけた。</p> <p>夜になると、各所で土砂崩れ、道路冠水が続発。消防団は市の防災関係部局と連携し、シート張り工法や土砂撤去などの活動を実施し、被害の軽減に努めた。</p> <p>台風22号接近時も各分団は器具庫で警戒待機。長時間にわたり、不眠不休で地域住民の安全を守った。</p> <p>山本団長「受賞は大きな励みになる。団員の団結力はどこにも負けない。」</p>
岸和田市 消防団	椎木康宏 団長 他29人	<p>玄関の浸水は、瞬く間に水位が上昇した。台風21号が接近した平成29年10月22日の大沢地区。消防団はただちに集結し、日没後の豪雨の中、24軒の門戸をたたいて回り、懸命の避難誘導で浸水地域一帯の住民の人的被害をゼロに抑えた。</p> <p>台風が去った後も建物の復旧活動はもちろん、被災世帯への飲料水の配布、被災者の心のケアなど多岐にわたる支援活動で地域住民に寄り添った。</p> <p>椎木団長「どの家に高齢者や要介護者がいるかを常に把握しておくことが重要だと痛感した。貴重な経験だった。」</p>
千早赤阪村 消防団	秋山正元 団長 他 80人	<p>台風21号の大雨による土砂崩れで建物が倒壊し、村内の避難者は100人を超えた。そうした中でも、人的被害はゼロ。避難の呼びかけや浸水の食い止めに携わった消防団員の勇気と行動力が光った。</p> <p>土石流が道路まで流れだし、土砂が足元を奪う中、高齢者を含む60人を迅速に避難させた。浸水家屋には水中ポンプを設置し、懸命の水防活動を展開した。</p> <p>秋山団長「消防団は地形に精通し、どこにだれが住んでいるかを把握している。今後も地域防災の要として全員で活動していきたい。」</p>